

議題 1

水辺（河川敷）のレクリエーション活動について

1 水辺（河川敷）のレクリエーション活動について

市では、これまで生活圏除染や農地除染を実施し、原子力発電所事故からの環境回復を進めてきた。

これら以外の場所について、海については、北泉海岸の海開きやサーフィン大会が開催され、また、山については、国見山森林公園の来年度の再開に向けて里山再生モデル事業を実施するなどし、生活圏ではない場所についても一定程度、震災前の状況に戻りつつある。

一方、海や山と同様に生活圏とは異なるが市民が利用していた場所として水辺（河川敷）がある。水辺については、震災前は秋に河川敷で芋煮会を行うなど市民の利用があったが、除染が行われていないことから、放射線量が懸念されるなどの声もある。

このことから、水辺でのレクリエーションを実施するために、放射線量の調査、水辺でのレクリエーションを実施するための準備等をどのように進めていけばよいのか、委員会の意見を伺うものである。

2 今回の対象地

別添資料 2 - 1 : 鹿島区上栃窪地区（立石）

立石は鹿島区中心部より西に 1.5 km、鹿島区上栃窪の真野川上流南側にある高さ 12 m に達する巨大な石柱。近くには立石石灰岩層が広く分布し、この層を地下水が溶かしてできた 30 あまりの洞窟（立石鍾乳洞）がある。この自然林は、みちのく緑の百景に「真野川溪谷の緑」として指定されている。

※河川敷への立ち入り、レクリエーション等での利用について、福島県建設事務所での制限はなし。

※内水面の採捕・出荷制限等については、2 ページに記載のとおり。

3 調査方法（案）

別添：資料 2 - 2 : 南相馬市 真野川河川敷 放射線調査計画書のとおり

※内水面の採捕・出荷制限等の状況（水産庁：令和5年3月8日現在）

(1) 国から摂取制限の指示のあった魚種・河川

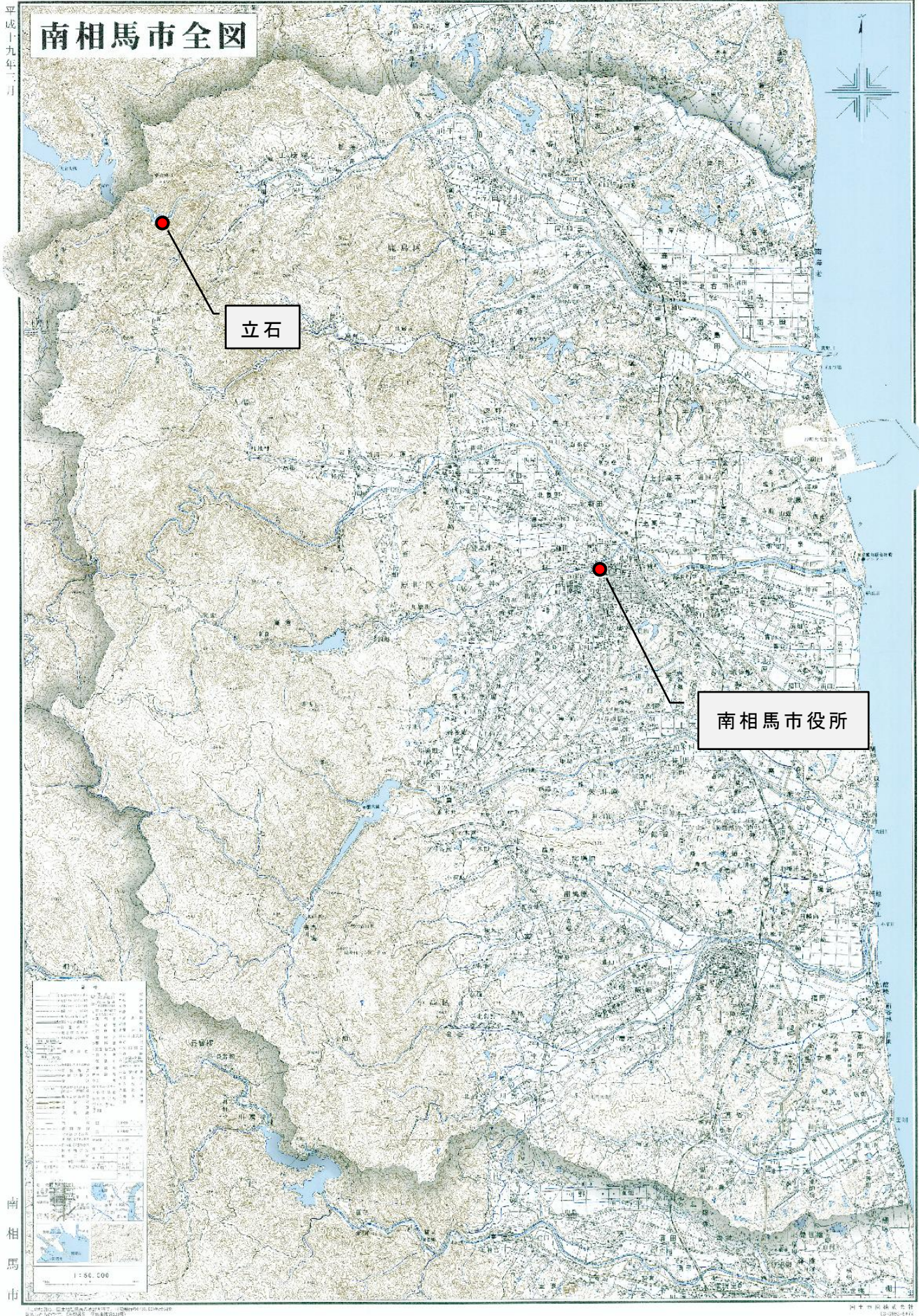
魚種	河川名	適用年月日
ヤマメ	新田川	平成24年3月29日

(2) 国から出荷制限の指示のあった魚種・河川

魚種	河川名	適用年月日
アユ	真野川	平成23年6月27日
	新田川	平成23年6月27日
ウグイ	真野川	平成23年6月17日
フナ	真野川	平成24年4月27日
ヤマメ	真野川	平成23年6月17日
	新田川	平成24年3月29日
	太田川	平成24年3月29日

(3) 県から採捕の自粛を要請した魚種・河川

魚種	河川名	適用年月日
モクズガニ	真野川	平成23年6月23日



平成十九年三月

南相馬市

南相馬市 真野川河川敷 放射線調査計画書

環境再生プラザ
2023年7月13日

1. 目的

南相馬市依頼により、鹿島区上栃窪の立石と呼ばれる石がある川辺を観光スポットとして利用するにあたり、放射線の現状を調査する。

2. 調査者

環境再生プラザ
株式会社菊池製作所

3. 調査項目

- ・ 個人被ばく線量測定
- ・ 空間線量率測定（定点、歩行モニタリング）
- ・ ガンマカメラ測定

4. 調査日程

2023年10月（1日間）

5. 調査場所



《対象エリア》

場所：南相馬市鹿島区上栃窪字石淵地内

延長：約 90m 幅：約 10～20m 面積：約 1500m²

現地調査は、各調査項目を対象エリアに対して面的に実施することとするが、現状は雑草の繁茂状況から具体的なポイント、歩行ルートの設定が困難であることから、調査

日程の直前で再度現地状況を確認して設定する。

6. 現地状況



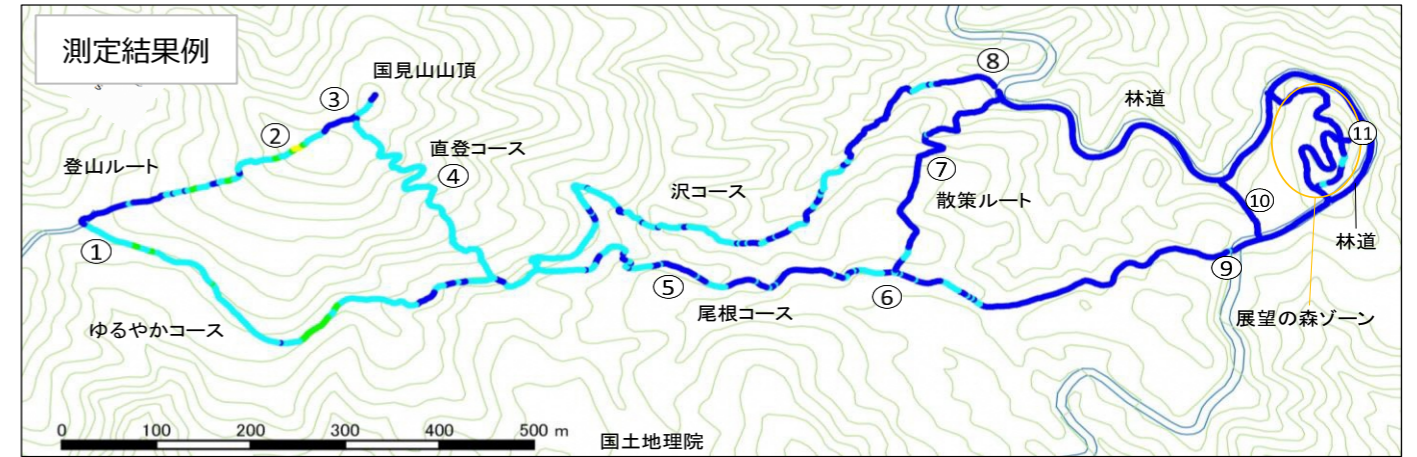
7. 添付資料

・南相馬市 真野川河川敷調査項目

以上

歩行モニタリング

歩行しながらNaIシンチレーションサーベイメータにて空間線量率を測定する。測定データは値により色分けしGPSデータと組み合わせて地図上へプロットする。



ガンマカメラ

ガンマカメラにてγ線の数を測定し、色分けして周辺画像と重ねて可視化する



被ばく線量測定

個人線量計を身に付け、調査中における個人被ばく線量を測定

